



# あした 未来へつなぐ

JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。

## 九月十九日は「保線安全の日」。 制定から五年目の今年も、全道の保線職場で 各種取り組みが行われました



R北海道が、平成二十五年九月十九日に発生させた函館線大沼駅構内での貨物列車脱線事故と二連の事象。これらの出来事を風化させないために、全

道の保線職場では、その日を「保線安全の日」と定め、安全最優先の企業風土を醸成する取り組みを毎年継続して行っています。平成二十六年の開始以

来、五年目の節目に当たる今年

は、北海道胆振東部地震発生の対応等により、急遽日程を変更し、十月二十五日～二十六日に実施しました。



レールの摩耗や欠損などについて、専用の機器により安全度を判定する訓練を行っています。

保線職場の一つ、函館保線所では、函館、大沼、八雲、長万部の四つの保線管理室とグループ会社が参加し、十月二十五

日に合同で実施。白川会長から「保線社員に求められるのは、安全な鉄路を提供しようという使命感です。鉄道の基本は線路。鉄道の安全、乗り心地、高速化を支えている、保線の使命感を伝えていくことが大事です」とのあいさつがあり、今年度の取り組みがスタートしました。

午前は、安全がテーマの体験談に参加社員が発表した後、グループに分かれてディスカッションを行うなど、改めて安全について考える時間となりました。また、午後は「鉄路に異常を認めるときに列車を緊急に停車させる、臨時の信号機を使用する訓練」「レールに損傷を認めるときに応急的に処理し、列車を通す訓練」などを体験。午前、午後の取り組みを通して、参加した社員からは「一つひとつの確認が大切だということを再認識できた」「今日、経験し

たことをこれからの仕事に生かしたい」といった感想が寄せられています。

現在、「保線安全の日」の制定のきっかけとなった事故以降に入社した社員は、保線系統だけでも三百十名に上っています。JR北海道では、再発防止への思いを風化させないためだけでなく、事故を知らない新入社員や経験の浅い社員にもその意義を伝え、安全意識を徹底することを目的に、今後もこれらの取り組みを継続して行っていきます。



活発に意見交換がなされたグループディスカッションの様子。